

別紙4 グランドデザイン、公募時の評価の視点、および審査委員会の評価講評

評価項目			九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザイン (2018年7月)	土地利用事業者公募時の評価の視点 (土地利用事業者募集要領において公表)	審査委員会の評価講評 (令和6年5月16日公表)
都市空間	III-1	広場・動線計画	<グランドデザイン(p.17-28)の記載概要> 4. 都市空間の整備方針 (2) オープンスペース（広場・公園等） 1.街角広場等の整備 2.公園の整備 (3) 歩行者動線 1.歩行者の骨格動線となる「歩の軸」の形成 2.利便性、回遊性の向上に寄与する歩行者動線 3.駅からの安全で快適な歩行者動線の確保 4.ゆとりある歩行者空間の確保 (4) 自動車動線 1.道路ネットワークの形成 2.駐車場の計画的な配置，有効利用 3.景観に配慮した道路空間等整備 (5) 自転車動線 1.自転車動線等の計画（通過交通の適切な誘導） 2.駐輪場の確保 3.放置自転車の対策	・街角広場の場所の特性に応じた広場計画の考え方が具体的で実現性のあるものとなっている ・開発公園の場所の特性に応じた公園計画の考え方が具体的で実現性のあるものとなっている ・地区内及び周辺地域の土地利用に応じた利便性、回遊性の高い歩行者ネットワークが提案されている ・地区内道路沿道の土地利用を踏まえたセットバック空間が具体的に提案されている ・歩行者動線や地区周辺交通を妨げない車両動線計画・駐車場計画（規模・配置・出入口）・自転車の動線計画・駐輪場計画の基本的な考え方が、歩行者の安全や周辺の交通環境に配慮したものとなっている。 ・歩行者や車両動線を踏まえた物流動線など、地区内の人や物の移動に関し、円滑で利便性が高い動線計画の考え方が示されている ・その他、独自の視点があり、特徴ある提案となっている	・提案Xは、街角広場や開発公園の整備、セットバック空間の確保により、回遊性の高い歩行者ネットワークが形成されるとともに、歩行者デッキの設置により歩車分離がなされている点が評価された。 ・提案Yは、スマートサービスと連携した歩行者用デッキの設置について評価された。 ・ <u>提案Zは、街角広場や開発公園の整備、セットバック空間の確保、交流を創出する広場が適切に配置され、みどりでつながる回遊性の高い歩行者ネットワークの形成に加えて、交通広場の整備等により、アクセス向上や交通混雑削減に寄与する交通施策が提案されている点が高く評価された。</u>
	III-2	緑空間の確保	<グランドデザイン(p.29-30)の記載概要> 4. 都市空間の整備方針 (6) 緑空間の確保 1.緑ある空間づくり 2.周辺地域と調和した緑の空間づくり 3.既存樹木の活用	・公園や街角広場、歩行者ネットワーク、建築敷地等の緑の連続性に配慮した緑空間が具体的に提案されている ・周辺地域に隣接する部分の緩衝帯として緑地が確保されている ・樹木や花を植えるなど、彩りやコミュニティ形成にも配慮された緑空間形成の考え方について具体的に提案されている ・既存樹木・保全樹林の効果的な活用方法が具体的に提案されている ・その他、独自の視点があり、特徴ある提案となっている	・提案Xは、旧九州大学箱崎キャンパスの樹種への配慮等、既存樹木や保全樹林を効果的に活用することでネイチャーポジティブの理念を実現しようとする点が評価された。 ・提案Yは、十分な緑化率を確保する提案となっている点が評価された。 ・ <u>提案Zは、既存樹木・保全樹林の効果的な活用や高い緑化率、樹木本数が多い点、さらにはそれらによる緑のネットワークの形成について高く評価された。</u>
	III-3	街並み景観・歴史の継承	<グランドデザイン(p.31-35)の記載概要> 4. 都市空間の整備方針 (7) 歴史の継承 1.近代建築物等の活用 2.既存樹木の活用 3.石積み遺構 (8)街並み景観 1.跡地等における都市景観形成 2.周辺地域や環境との調和 ①既成市街地 ②道路空間 ③水辺空間 3.建築物等の景観形成 4.都市景観の誘導	・周辺地域との調和やまち全体の統一感の創出に資する景観デザインのコンセプトが具体的に提案されている ・周辺地域との調和や繋がりに配慮し、圧迫感を与えないデザインの工夫がされている ・建築物等に関する景観要素（屋外広告物、屋上設備、付帯工作物等）や夜間景観の考え方について具体的に示されており、良好な景観形成が期待できる。 ・史跡周辺について、景観への配慮が具体的に提案されている ・オープンスペース等にパブリックアートを設置するなど、まちに彩りを与える取組みが具体的に提案されている ・その他、独自の視点があり、特徴ある提案となっている	・提案Xは、九州大学のレガシーの継承や地域住民によるまちづくりへの参画が提案されている点が高く評価された。 ・提案Yは、駐車場が大きな面積を占めており、街並み景観の考え方が具体的に示されていない点が懸念された。 ・ <u>提案Zは、旧九州大学箱崎キャンパスの面影を継承した街並み景観の形成や、周辺地域との調和やスカイラインに配慮したデザイン、保存部材を活かしたパブリックアートの設置が提案されている点が高く評価された。</u>

別紙4 グランドデザイン、公募時の評価の視点、および審査委員会の評価講評

評価項目			九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザイン (2018年7月)	土地利用事業者公募時の評価の視点 (土地利用事業者募集要領において公表)	審査委員会の評価講評 (令和6年5月16日公表)
都 市 機 能	IV-1	土地利用計画	<グランドデザイン(p.37-41)の記載概要> 5. 都市機能配置の方向性 (1) 都市機能配置の視点 1.都市機能誘導の考え方 2.ゾーンごとの都市機能配置（イメージ） ■教育・研究ゾーン ■安全・安心・健やかゾーン ■成長・活力・交流ゾーン	・立地特性を活かし、まちづくりのコンセプトを具現化する都市機能の創出に資する土地利用ゾーニングが提案されている ・周辺地域との調和にも配慮された土地利用ゾーニングが具体的に提案されている ・6つの都市機能間の相互連携について、特定の機能に偏ることなく、具体的に効果的な提案となっている ・居住機能について、多様な需要に対応した提案となっている ・生活支援機能について、居住者や来街者の利便性の向上に資する提案となっている ・教育機能について、イノベーションを生み出す人材育成など、多種多様な教育が受けられる提案となっている ・医療・福祉機能について、医療や福祉、健康づくりの機能などの連携が図られ、誰もが快適で健やかに暮らせる提案となっている ・その他、独自の視点があり、特徴ある提案となっている	・ <u>いずれの提案も、6つの都市機能が、特定の機能に偏ることなく提案されている点が評価された。</u> ・提案Xは、大規模集客施設を核とし、都市機能に応じた施設配置がなされている点が評価された。 ・提案Yは、都市機能に応じた施設配置がなされている点が評価された。 ・ <u>提案Zは、イノベーション拠点を中心に、各都市機能が有機的に繋がるよう施設配置がなされている点、多種多様な教育機能、医療・福祉機能が提案されている点が高く評価された。</u>
	IV-2	業務・研究機能	<グランドデザイン(p.38)の記載概要> 5. 都市機能配置の方向性 (1) 都市機能配置の視点 1.都市機能誘導の考え方 ■都市機能誘導の考え方（イメージ） ・イノベーションを生み出す人材・企業の集積を図るため、業務や研究機能、創業を支援する機能を誘導する。（業務・研究機能）	・立地特性を踏まえた具体的で実現性のある提案となっている ・FukuokaSmartEastを推進し、イノベーション拠点の創出に資する施設や活動内容について具体的に提案されている ・イノベーションの創出に資する人材や企業集積を図るための考え方について具体的に提案されている ・新しい働き方や価値観への対応について具体的に提案されている ・その他、独自の視点があり、特徴ある提案となっている	・ <u>いずれの提案も、イノベーションの創出等を促す拠点施設が提案されている点が評価された。</u> ・ <u>提案Zは、スタートアップエコシステムの展開、海外との連携等、新たな産業を生み出すための取組みが具体的に提案されている点が高く評価された。</u>
	IV-3	交流・にぎわい機能	<グランドデザイン(p.38)の記載概要> 5. 都市機能配置の方向性 (1) 都市機能配置の視点 1.都市機能誘導の考え方 ■都市機能誘導の考え方（イメージ） ・大学が地域とともに担ってきた役割の継承と、新たな活力の創出のため、文化・情報発信や生涯学習の場など、人々が集う交流・にぎわいの機能を誘導する。（交流・にぎわい機能）	・立地特性を踏まえた具体的で実現性のある提案となっている ・広域から人々が目的地として訪れるなど、多くの集客が見込める具体的な提案となっている ・用途の複合により新たな体験を提供するなど交流・にぎわいの核となる施設（広域から人々を惹きつける、福岡市の魅力向上や持続的な成長に資する新たな活力・交流を生み出す機能）や取組みが具体的に提案されている ・多様な人々が利用可能な都市機能が具体的に提案されている ・滞在や滞留を促し、回遊性を向上させるなど、周辺地域へのにぎわいの波及が期待できる提案となっている ・周辺地域との調和に配慮された施設計画の考え方について具体的に提案されている ・その他、独自の視点があり、特徴ある提案となっている	・提案Xは、戦略的な都市機能として、大規模集客施設を整備することにより、広域から多くの集客が期待できるとともに、多様なコンテンツや多くのイベント開催などが提案されている点が評価された。一方、交通環境への影響については懸念された。 ・提案Yは、様々な交流・にぎわい創出に関する取組みが盛り込まれている点が評価された。 ・ <u>提案Zは、体験型交流拠点や交流広場等を整備した上で、多様なコンテンツや多くのイベント開催などにより複合的ににぎわいの場を形成する提案が高く評価された。</u>